



農機事業JA・県域一体運営

祝 うつのみや広域農機センター開所式

役員によるテープカット

サービス向上につなげる うつのみや広域農機センター開所



JA うつのみやとJA全農とちぎは9月1日、宇都宮市平出町に新たに開設した「うつのみや広域農機センター」で開所式を開き、JAうつのみや、全農とちぎの役員ら33人が参加しました。農機センターの一体運営は県内JAで6例目となります。

これまでではJA全農とちぎが農機をメーカーから仕入れ、JAうつのみやが販売や修理を行ってきました。今回行われた事業の一体化は、農機需要が減少する中で、経営資源の効率活用や事業競争力の強化を図り、組合員サービスの向上につなげることが目的です。

開所式では同センター職員による決意表明、役員によるテープカットが行われました。

JAうつのみやの佐藤俊伸専務は「組合員、利用者の信頼と期待に応えられる農機センターになってほしい」とあいさつしました。JA全農とちぎの池田佳正県本部長は「他の広域農機センターとも連携し、地域ナンバーワンとして認められるよう努めてほしい」と語りました。

営農相談員のご紹介

営農相談員は組合員の営農活動全般に関する総合窓口として、各種相談事の対応や地域農業の振興に寄与する取り組みを行っています。

各営農経済センターに所属する9人の営農相談員が2人のブロックリーダーと他部門とも連携しながら活動しています。

具体的な活動

①地域農業の安定と発展

地域農業の担い手の確保・育成に努めます。

②経営相談

経営実態を踏まえた総合的な事業支援を行います。

③新規就農者への支援

就農計画に基づき計画達成への支援を図り、地域と調和できるよう支援します。

④経営改善支援

経営改善計画に基づき、計画達成のための総合的な支援を行います。

⑤集落営農や農業法人

組織化支援及び事務負担軽減・経営の高度化に取り組んでいます。

2022年度上期の実績

①新規品目の導入規模拡大

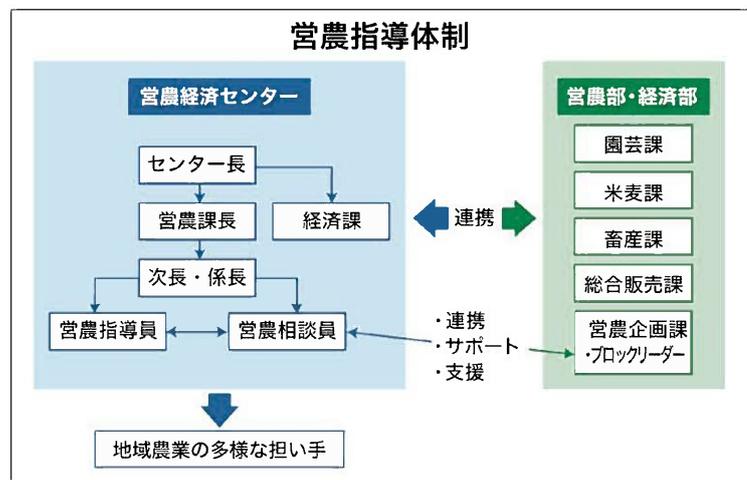
新規品目栽培者 13人156畝

②経営改善支援

経営改善支援対象者 63人

③新規就農者の確保・育成

令和4年度上期新規就農者 18人



営農指導事業

組合員の農業所得の増大を図るため、各種指導を行っています。

また、地域農業における生産基盤の維持・発展を図っています。



上三川営農経済センター 営農課

石崎 将弘さん



- Q 入組して何年目になりますか。また、営農相談員を担当して何年目になりますか。
- A 入組10年目です。営農相談員になってからは5年になります。以前は南河内の野菜集荷所や育苗センターで勤務していました。
- Q 業務で特に心掛けていることについて教えてください。
- A 生産者の方となるべく直接会って話をするを特に心掛けています。しっかりとコミュニケーションを取り、相談に対してすぐに対応できるようにしています。また、信頼関係を築くことも重要です。就農は人生の大きな決断なので、失敗がないようにできる限りこちらも支援していければと思っています。
- Q 営農相談員を担当してうれしかったことについて教えてください。
- A 日々の訪問活動の中で「相談に乗ってもらって良かった」と声を掛けていただくとやはりうれしいですね。今後も何でも気軽に相談していただけるような存在になれるよう努力していきたいです。
- Q 最後に今後の意気込みを教えてください。
- A 組合員の方から信頼される職員を目指していきたいですね。また、就農希望者を支援し、新たに農業をはじめの方を増やしていくことで、地域農業の活性化や地域全体の盛り上がりのお手伝いできればと思っています。

営農
相談員の

上三川営農経済センターの石崎将弘さん(32)と
東部営農経済センターの戸崎徹さん(27)の2人
にお話を聞きました。

- Q 入組して何年目になりますか。また、営農相談員を担当して何年目になりますか。
- A 入組9年目です。営農相談員になってからは5年になります。東部営農経済センターに長く勤めており、営農相談員の前は営農指導員として活動していました。
- Q 業務で特に心掛けていることについて教えてください。
- A 組合員さんによって抱えている課題が違うので、相手のことをよく知るために、しっかりコミュニケーションを取るように心掛けています。その中で信頼関係を築き、ニーズを引き出せるようになりたいです。また、最適な答えをご提案できるようにしていきたいです。
- Q 営農相談員を担当してうれしかったことについて教えてください。
- A 組合員さんから「戸崎さんでよかった」「助かりました」と言われるときが一番うれしいです。実際に就農支援をさせていただいた方が無事就農されて、感謝の言葉を頂いたときは、相談に乗ることができて良かったと思いました。
- Q 最後に今後の意気込みを教えてください。
- A 日々の訪問活動はもちろん、横のつながりや連携体制をより強くしていきたいです。それにより、より多くの方のニーズに添えるような活動につなげていきたいです。

東部営農経済センター 営農課

戸崎 徹さん



イチゴの栽培作業を体験 新入職員農業研修



定植作業を体験する新入職員



JA は8月29日と9月16日の2日間、宇都宮市上小倉町のJAアグリうつのみやのほ場で新入職員農業研修を行い、2022年度新入職員18人が参加しました。

同研修は実際の農業体験を通じて農業への理解を深め、職員としての視野を広げることを目的に2012年から実施しています。今回の研修では、イチゴのランナー処理作業と定植作業を2日間に分けて行いました。JAアグリうつのみやの担当者から説明を受けた参加者は、協力しながら丁寧に作業を行いました。

研修に参加した新入職員の薮優佳さんは「農作業の大変さが分かった。イチゴの1年間の栽培管理についても教えていただき勉強になった」と話しました。

2022年産米収穫進む JA役員らが米荷受施設巡回



JA は9月16日、米荷受施設巡回を実施。JAのライスセンターやカントリーエレベーターを常勤役員が巡回し、22年産米の集荷状況などを確認しました。

施設巡回はJAの常勤役員がコメの集荷状況と品質を把握することが目的。当日は各施設の担当者が稼働状況や本年産米の品質について説明しました。

担当者によると、本年産米の品質はおおむね良好で収量も例年並みと見込まれます。担当者は生産者に適期刈取を呼び掛けました。

JAの横松久夫組合長は「たわわに実ったおいしい管内産米を、ぜひ味わってほしい」と期待を込めました。コメを出荷した生産者の塚田啓一さんは「天候に恵まれ、例年より良いコメが収穫できた」と話しました。



施設巡回を行う役員ら

下野市に要請書を提出 農業者支援要請手交式



要請書を坂村市長(中央右)に手渡す横松組合長



JA は9月14日、下野市役所で「旧南河内町管内(下野市農業再生協議会)への生産振興及び担い手の確保育成に関する農業者支援要請手交式」を行いました。JAの横松久夫組合長が要請の内容について説明と意見を述べました。

横松組合長は「儲かる農業」と「地域ぐるみで農業・農村を支える」仕組みの実現を目指し、地域に根差した産地づくりに取り組むため①多様な担い手確保育成事業②生産振興事業について、支援を要請しました。

今回の要請書提出を受け、坂村哲也市長は「担い手を増やしていくため、対策を力強く進めていかなければならないと承知している。連携を密にし、生産振興にしっかりと取り組んでまいりたい」と語りました。

集落組織化に向けて検討加速 集落営農について意見交換



宇都宮市上田町で行われた意見交換会



JAは8月30日、宇都宮市上田町で「上河内地区上田集落営農意見交換会」を開き、同地区集落営農研究会の会員や関係機関の担当者など29人が参加。集落営農組織化に向けた検討を加速させました。

同会の恩田明会長が「コロナ禍でも地域の高齢化は進んでいく。関係機関を含め協力し合っていきたい」とあいさつしました。

意見交換会では、昨年度実施した集落営農視察研修会の振り返りを行いました。またJAの職員が集落営農の概要について説明。県の担当者が広域営農システム、市の担当者が人・農地プランの計画と集落営農補助事業について紹介しました。意見交換では活発に意見が上がり、今後も検討会を開催することが決定しました。

就農希望者など農作業学ぶ イチゴ農作業体験



JAは9月10日に宇都宮市下桑島町の鈴木啓介さん、17日に宇都宮市岩曽町の半田悦久さんのほ場でイチゴ農作業体験会を開きました。

同体験会は、新規就農を目指す人たちが実際に農作業体験を行うことで、農業への理解を深めてもらうことを目的とした取り組み。将来的な就農者確保につなげるため、今年度から初めて実施しました。

10日に行われた体験会には、就農希望者など6人が参加しました。参加者は鈴木さんの育苗ハウスを見学した後、イチゴの定植を体験。アドバイスを受けながら丁寧に苗を植えていました。参加者は「イチゴの定植作業は初めて。思ったより腰に負担が掛かることがわかった。実際に体験できて良かった」と話しました。11月に鈴木さん、半田さんの同ほ場で収穫体験を実施する予定です。



定植作業を行う参加者

コメ作りへの理解深める 崎陽軒が稲刈り研修



上小倉町で行われた稲刈り研修



崎陽軒と全農パールライスは9月13日、宇都宮市上小倉町の江連充洋さんのほ場で稲刈り研修を行い、同2社やJAの役員7人が参加しました。

崎陽軒では「シウマイ弁当」にJA管内産のコシヒカリを使用しており、農業への理解を深めるため、例年田植え・稲刈り研修を実施しています。当日は江連さんが収穫方法や稲の束ね方を説明。参加者はほ場に入り、黄金色に実った稲を刈り取りました。稲は5束ほどに束ね、昔ながらの乾燥方法である「稲架掛け」を行いました。

崎陽軒の君塚義郎常務取締役は「農家の方は非常に大変な思い

をしてお米を作られていると思う。私たちはお米の生産はできないが、おいしいごはんでおいしいお弁当を作らせていただいている」と語りました。JAの見形繁代表理事常務は「この地域では鬼怒川の清流を使っておいしいコメができる。シウマイ弁当は大変人気の商品ということで、産地としてもありがたい」と話しました。

最優秀賞を受賞した池口さん



宝木出張所の池口結菜さんが最優秀賞(9月5日)

JAは宇都宮市戸祭元町のJA本所で2022年度共済ロールプレイング大会を開きました。支所・出張所の共済窓口を担当する職員4人が参加し、宝木出張所の池口結菜さんが最優秀賞を受賞しました。



豊郷支所の狐塚玲奈さん



清原支所の猪鼻楓さん



姿川支所の塚越祐介さん



なの花会がフードバンクうつのみやに女性用品を寄付(9月2日)

JA女性組織なの花会は、宇都宮市埜田2丁目のフードバンクうつのみやに女性用品や食品などを提供しました。同女性組織は、地域社会への貢献および生活困窮者支援を目的に、今回初めてグループ会員から女性用品を中心に、食品などを持ち寄りました。



牧岡事務局長(右)に物資を手渡すグループ代表者



ナンを陳列する生徒たち



中学生が職業体験・宮っ子チャレンジウィーク(9月12日～16日)

宇都宮市立雀宮中学校の社会体験学習「宮っ子チャレンジウィーク」が実施され、同校2年生の平山吾洲さんと山本琉偉さん、篠崎翔さんが参加。南部宮農経済センター管内で、直売所の運営補助やJA施設の見学などを行いました。

組合員の皆さまからの地域の話や活動報告をお待ちしております。写真を添えてお送りください。
※紙面の都合上、掲載されない場合もありますのでご了承願います。詳しくは総務課組合員広報係まで。



稲刈りをする児童



岡本西小で昔ながらの稲刈り・脱穀体験(9月22日)

宇都宮市立岡本西小は同校近くの宮越則夫さんのほ場で稲刈りの体験学習を行いました。また、千歯こぎ、足踏み式脱穀機、電動式脱穀機による脱穀を体験し、稲作に使う道具の歴史を学びました。



たくさんの「鶏の唐揚げ」に子どもたちも満足(9月26日)

みどり会河内支部は、宇都宮市戸祭4丁目の昭和こども食堂で調理ボランティアを行いました。相沢令子支部長は「人気メニューである唐揚げを他のメニューより多く作りました。完成予定時間内に間に合わないかと思い、ドキドキしました」と話しました。

机に並ぶ今回のメニュー4品



完成した料理を盛り付ける相沢支部長(左)と会員

発表を行う国本支部の砂川知緩支部長



発表についてアドバイスを行う参加者



JA青壮年部が青壮年支部交流会開催(9月27日)

JA青壮年部は宇都宮市上大曾町のホテル東日本宇都宮で青壮年支部交流会を開き、青壮年部員やJAの担当者ら19人が参加しました。青壮年部国本支部はJA栃木青年部連盟主催で10月に開催された青年大会で組織活動の実績を発表しました。同交流会は、6月24日行われた第1回に引き続き、組織全体で発表の準備を行うことを目的に開催しました。

旧雀宮支所が子どもの居場所「こどもてらす」に(9月28日)

2015年に廃止された旧雀宮支所の建物が、9月から子どもの居場所「こどもてらす(NPO法人雀宮まちづくりプロジェクト)」として、利用されています。



旧雀宮支所の現在の外観

麦

雑草防除

播種後、速やかに全面土壌処理を行い、その後は雑草の発生状況により生育処理を行います。

また、近年カラスムギの発生が著しいほ場が見られます。収穫時に混入した場合、選別機で完全除去することは不可能です。生育中の発生に注意しましょう。



ほ場に発生したカラスムギ

排水溝の確認

ほ場周囲に設置した排水溝が、その機能を発揮できるように定期的に点検を行い、必要に応じて溝さらいなどを実施しましょう。



ほ場周囲の排水溝

麦踏み

麦踏みは、地上部の過剰生育を抑制しながら、分げつを旺盛にし、根張りを深くするとともに、耐寒性を増大させる効果があります。

麦踏みは年内に1〜2回、葉が3枚見えるころから実施します。年明け以降は茎立期(3月上中旬)直前までに2回程度実施しましょう。



麦踏みの様子

国産麦のニーズ

近年消費者の安全・安心志向の高まりや地産地消の推進から、国産麦の製品が増加しており、国産麦に対するニーズが高くなっています。麦の栽培にあたっては次の表1を目標とし、高品質の麦を生産しましょう。

表1

ビール大麦の品質目標	
①	上位等級(1, 2等)での出荷
②	発芽勢 98%以上
③	水分 12.0%以下
④	蛋白質含有率 10.0~11.0%
⑤	整粒歩合 2.5mm篩 95%以上
小麦の品質目標	
○日本めん用(さとのそら)	
①	容積重 840 g/ℓ以上
②	蛋白質含有率 9.5~10.5%
③	水分 12.5%以下
○パン・中華用(ゆめかおり)	
①	容積重 833 g/ℓ以上
②	蛋白質含有率 13%以上
③	水分 12.5%以下

水稲

イネ縞葉枯病収穫後の対策

イネ縞葉枯病は感染すると葉および葉鞘に黄緑色または黄白色の縞状の病斑が生じ、発病株は生育不良となり、葉が細くなって巻いたまま垂れ下がりが枯れてしまいます(ゆうれい症状)。また、穂の出すくみ、不稔が発生し減収します。

収穫後は感染した株から伸びる再生稲(ひこばえ)を放置せず、速やかに耕起して発病株を鋤きこんでください。また、今年度発生が多かったほ場は、被害を受けにくい品種(とちぎの星、あさひの夢など)の作付を検討しましょう。



水稲作付品種を

変更するときの注意点

来年度にコシヒカリからあさひの夢など作付品種の変更を検討している場合は、今年の収穫時にほ場に落ちた籾が、翌年成長して収穫物に混ざり「異品種混入」と指摘される可能性があります。

漏生稲の発生を防ぐためには、
① 収穫後速やかに耕起し発芽を促し、冬の寒さで枯死させるほか、腐熟させて発芽能力を失わせる。
② 春には早めの荒代かきを行い、発芽を促し植代で鋤きこむ。
などの作業が必要です。



縞葉枯病による再生稲の黄化



生育初期の発病：ゆうれい症状



生育初期の発病：出すくみ(県農業環境指導センター)



『青壮年の記』 ～Youth & Middle～ ユース & ミドル

姿川支部

川支部は現在盟友35人で活動しています。例年12月に開催される収穫感謝祭では、姿川の各部会と協力しさまざまなイベントを行っています。盟友の栽培した農産物やポップコーンなどの販売、お米の試食会や新鮮な農産物をゲットできるビンゴ大会など、会場の子どもたちと一緒に楽しむ企画を開催しています。

コロナ禍で例年通りの活動ができていない状況ですが、今年度こそさまざまな活動が再開できるよう協議を重ねるとともに、地域の方々や子どもたちに興味を持ってもらえるような活動に取り組んでいきます。また、今後も伝統ある活動の継続、新たな活動の始動をしていくために多くの新規盟友を募集しています。



例年の収穫感謝祭の様子

上三川支部

上三川支部は現在盟友16人が所属しています。コロナ禍前はボーリング大会や農業祭、研修旅行を実施していました。

中でも毎年11月に開催される上三川の農業祭では餅つきへの反響が良く、多くの地域住民と交流をしていました。

コロナ禍以後は盟友の高齢化や新規盟友の勧誘が上手く進まなかったことが影響し、目立った活動は行えていませんが、昨年からは始めたポリオワクチン寄付のためのペットボトルキャップ収集を通して、小さなことから協力し合い次世代のために貢献できるのだと改めて実感しました。情勢も不安定で平時にはまだまだ程遠いですが、できることから取り組んで支部活動を継続していききたいと思っています。



女性会と連携しながらペットボトルキャップ回収

青壮年部全体(本部)

JA 青壮年部では、上期にさまざまな活動を展開してきました。7月には、昭和こども食堂の夏休みイベントに盟友が育てたスイカと新型コロナウイルス感染症対策の除菌ウェットティッシュを手渡しました。昨年度も提供し子どもたちに好評だったことを受けての依頼で、継続した活動が少しずつ実を結んでいることを実感しました。

8月には資材の高騰や働き手確保などの課題解決に向けた学習会を開催。多くの盟友が参加し、活発な質疑が飛び交いました。下期には、JA常勤役員との意見交換会や視察研修会を開催予定です。若手農業者としてJA運営に積極的に参加するとともに、農業経営の視野を広げるため、活動を実施していきます。



子ども食堂にスイカを提供



8月に開催した学習会

ワンプレート レシピ

One plate recipe

秋の冷やし鉢



シェフ永井のおすすめ

材料(10人分)

- サツマイモ.....240g
- サトイモ.....240g
- カボチャ.....120g
- ミニトマト.....10個
- ユズ.....適宜
- 塩.....適宜
- A(だし汁ゼリー)
 - かつおだし.....640ml
 - 薄口しょうゆ.....80ml
 - みりん.....80ml
 - 粉ゼラチン.....8g

作り方

- ①サツマイモ、サトイモ、カボチャは皮をむき乱切りにして水洗いし、薄く塩を振り蒸し器で20分ほど蒸す。
- ②器に①の野菜、半分にカットしたミニトマトを彩りよく盛り込む。
- ③小鍋にAを入れ一煮立ちさせ、熱いうちに②の器に流し入れる。
- ④粗熱を取ってから冷蔵庫で冷やし、Aが固まったら出来上がり。仕上げに振りユズをかけてどうぞ。

茨城県笠間市にある
天晴(旧キッチン晴人)
オーナーシェフ
ながい ともかず
永井 智一



今月の直売所情報

南河内グリーンセンターの
11月のお薦め品
ハウレンソウ

選び方:葉先がびんと張っていて、葉肉が厚く、緑色の濃いものがお薦めです!!



お米の特売日

JAうつのみや お薦めのみやおとめ(コシヒカリ)をお買い得価格にて販売します!!

JAグリーンインターパーク
直売所 毎月第3日曜日(11/20)

JAグリーンかみかわち直売所
毎月8の付く日(11/9(8日定休日のため)、18、28)

特売 南河内
グリーンセンター
第3金土日曜は
特売デー

11/1~3/31の期間、下記のとおり営業時間が冬時間に変更となります。

店舗	開店時間	閉店時間	定休日
JAグリーンインターパーク直売所	午前9時	午後4時	第2火曜日

南河内グリーンセンター 生産者さん募集中!!

北側ガラス温室テナントも同時募集中
詳しくは南河内営農経済センター
TEL: 0285-48-2215
営農課 森田・上野まで

上河内支所

だより

各支所の活動や地域の情報をお届けします!



私たちがお伺いいたします

上河内支所は栃木県の中央部に位置し、北には羽黒山が構え、東には鬼怒川が流れる自然豊かな地域にある店舗です。16人の職員が所属し、農業と地域社会に根ざした組織としての社会的役割を果たせる店舗を目指して日々の業務に取り組んでいます。

ライフアドバイザー4人と金融総合渉外2人がお客さまのお役に立てる情報をお届けしますので、お気軽にご相談ください。



ライフアドバイザーと金融総合渉外

天下一関白神獅子舞



天下一関白神獅子舞

栃木県下に広く分布する関白流獅子舞。当支所管内の関白町には関白流獅子舞の始祖とされ一千年も引き継がれてきた県指定無形民俗文化財の「天下一関白神獅子舞」が、また中里町西組自治会には江戸時代に関白村（現在の関白町）より伝授され百数十年続く、宇都宮市指定無形民俗文化財の「天下一関白流御神獅子舞」が代々伝承されてきました。獅子舞は、悪魔払い・家内安全・危難消除・五穀豊穡などの祈りの舞として行われております。

関白町では8月の第1土曜日に関白山神社・関白公民館を舞台に、また中里町西組自治会では8月15日に白山神社・西組公民館を舞台にそれぞれ毎年行われています。迫力満点の獅子舞をぜひご覧になってはいかがでしょうか。



各種お問い合わせはこちらへ

支所・センター電話番号

中央支所 028-633-3467	南河内支所 0285-48-2211
宝木出張所 028-622-6111	上三川支所 0285-55-1510
平石支所 028-661-4311	宇都宮北部営農経済センター 028-665-0550
南部支所 028-656-1020	宇都宮西部営農経済センター 028-658-6565
城山支所 028-652-0711	宇都宮南部営農経済センター 028-656-8484
北部支所 028-665-0003	宇都宮東部営農経済センター 028-660-3535
豊郷支所 028-624-8011	上河内営農経済センター 028-674-2164
清原支所 028-667-0151	河内営農経済センター 028-673-6911
姿川支所 028-658-6881	南河内営農経済センター 0285-48-2215
上河内支所 028-674-3333	上三川営農経済センター 0285-55-1511
河内支所 028-673-3135	住宅ローンセンター 028-622-7100

- キャッシュカードの紛失・盗難**
フリーダイヤル0120-082065
- 夜間・土・日・祝祭日の自動車事故(24時間受付)**
事故受付センター フリーダイヤル0120-258931
- JA葬祭(24時間受付)**
アトラス宇都宮ホール 028-660-5555
アトラスファミリーホール鶴田 028-633-9200
アトラス上三川ホール 0285-55-1555
- LPガス関係 灯油・軽油・A重油の配送**
フリーコール 0800-700-0085(通話無料)
※緊急連絡先028-633-0085